

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル策定部会(第11回・第2期第5回) 会議録	
開催日時	平成29年6月21日(水) 18:30~20:15
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 協働のマニュアル策定部会作業班からの進捗報告 (2) 第2期まとめの作成について 3 その他 4 閉 会
出席委員	久委員長、飯室委員、石谷委員、加藤委員、熊澤委員、古村委員、高松委員、檜垣委員、久米委員、田中委員、溝口委員、足立委員
開催形態	公開(傍聴人2)

1 開会

第11回・第2期第5回宝塚市協働のまちづくり促進委員会協働のマニュアル策定部会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は12人、欠席者は1人であり、過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること及び傍聴希望者は2名であることを報告した。

2 議事

(1) 協働のマニュアル策定部会作業班からの進捗報告

久米委員より、進捗状況の報告を行った後、事例集の作成に向けて下記のとおり意見交換が行われた。

ア 資金面で困ったところや、立ち止まることがなかったのかなど、活動をしていく中での苦労点についてインタビューしてはどうか。

イ【会長意見】インタビューされる側も活動を整理する良い機会になるのではないか。

ウ 活動は過去のものではなく、現在も続いているものである。インタビューされる側として、どこまで話していいのかわからない。

エ【会長意見】将来の展望や、希望を聞いてはどうか。

オ 協働の事業を経験してきたが、良いことばかりではなかった。人間関係が悪くなったという話もあるかもしれない。個人や、組織が特定されないようにまとめていきたい。個人や組織が特定される可能性を考えながら進めていく必要があるのではないか。

カ【会長意見】現場の臨場感を持たせながら角の立たないような文章にするのは難しいが、チャレンジしていただきたい。

キ 相手が文字に起こしたものをそのまままとめるのではなく、我々がインタビューを行い聞き取ったものをまとめていくむずかしさを感じる。ひかえた表現にせざるを得

なくなってしまうのではないか。他市の人が事例集を読む可能性もある。

ク 前回の作業班では、書き方のイメージなどの方向性について話し合われたのか。

ケ していない。

コ 協働のまちづくり促進委員会の任期が9月までなので、8月中にはインタビューを終え、ある程度まとめたうえで次期の委員に引き継ぎたい。

サ 文字でいっぱいにするのではなく、できるだけ写真をたくさん載せてはどうか。

シ【会長意見】A4サイズの見開き1ページに写真たくさん入れると、文字は「このプロジェクトは一言で言うと〇〇」くらいにしぼった分量になるのではないか。

ス 前回の作業班にて。掲載する写真について、たとえば長尾地区の「一緒にプロジェクト」であれば、あたたかいごはんから湯気が出ている写真でも表現できるのではないかという意見があった。

セ 活動したいと考えている人たちに少しでも参考になるような事例集を作成したい。

ソ 質問を固定化してしまうと、団体が取り組んでいる事業の内容が薄れるのではないか。

タ【会長意見】インタビューの方法には、質問項目を用意しその通りに聞いていく方法を「構造化インタビュー」、用意せずに臨機応変に聞いていくことを「非構造化インタビュー」という。その2つの間に、項目は用意するが話の流れによって質問項目を変える「半構造化インタビュー」がある。おそらく、事例集では「半構造化インタビュー」がメインとなるのではないか。

チ 半構造化インタビューを行うのであれば、人数は多い方が良い。

ツ インタビューは2人体制ではなく、できるだけ3人体制に。3人目がメインとなれば、インタビューも締まるのではないか。

テ 委員会の任期が終わっても、作業班のメンバーとして残っていただくなど、色々な形で携わっていただきたい。事務局でもそのような仕組みについて検討いただきたい。
→事例集の作成にあたっては引き続き、作業班で進めていくこととなった。

(2) 第2期まとめの作成について

事務局にて第2期のまとめを作成のうえ、作業班で協議を行い、修正したものを8月23日(水)の全体会までに各委員宛て送付するという流れでよいか。→委員了承

3 その他

事務局より、協働のマニュアル策定部会作業班について、ぜひ多くの委員のみなさまにご協力いただきたい旨説明をおこなった。また、次回の作業班は、7月6日(木)夕方から開催することとなった。その他、下記のとおり意見交換が行われた。

ア 促進委員会はやるべきことが明らかである。やるべきことを分解し、それぞれのボリュームを把握したうえで、優先順位を付けて1つずつ完成させていく。

イ【会長意見】今やらなければいけないことは何なのか、タイムスケジュールのようなものを用意してはどうか。

ウ もう一度、ワークショップを開催してはどうか。協働のまちづくり促進委員会に携わってきて、何が前進しているのか分からない。

エ【会長意見】第2期のまとめをオープンに発表できる場を作り、意見をもらいながら第3期につなげてはどうか。

オ 協働のまちづくり促進委員会に携わるなかで、「活動しよう」という人が増えたよ

うな気がする。

カ【会長意見】ワークショップで出た意見を評価のたたき台にしてはどうか。「何ができて、何が積み残っているのか」を整理する良い機会になる。前回のワークショップから、意見がどう変わったのか知ることができるのでは。

キ 協働のまちづくりの精神が芽生えていることが分かれば、もっと進めていこうという活力にもつながる。

ク 活動されている方の相談窓口になれるような、委員会になればと思う。

ケ 今まで作成した協働の指針やマニュアルを手にとった方がどのような気持ちに変わったかを知ることが大切である。

コ 作業班に参加したいと手を挙げる職員が出てきたことも大きな成果だと感じる。

サ 各まちづくり協議会の定例会議に若手職員が出向く研修では、参加した職員の意見をまちづくり協議会にフィードバックするような仕組みがあると良い。お互いに刺激を受け、お互いが変わっていくと良いのではないか。

シ【会長意見】報告書は作成してもらっているのか。

ス【市】10月頃に若手職員による意見交換を行い、年度末に報告書を提出いただいたうえで全体の意見を把握する予定である。

セ 参加した若手職員によるレポートは参加後できるだけすぐにいただきたい。

ソ【会長意見】若手職員がまちづくり協議会の定例会議に参加することで、誰が入っても溶け込めるような雰囲気づくりを行うための、1つのきっかけにさせていただけると嬉しい。

4 閉会